

第一回自助対策県民運動促進協議会を開催しました



(開催の目的)

近年、国内外で立て続けに大規模な災害が発生していますが、これらの大規模な災害の被害を軽減するためには、行政機関の防災への対策や隣近所の助け合いの活動のほか、住民自らが、日頃から災害への備えをしっかりととる、いわゆる「自助」の備えが非常に重要です。

しかし、「災害は怖い」・「何か災害のために備えなくては」という意識は皆あるものの、なかなか実践にはつながっていないのが現状です。

そこで、県では、「自助」を現在すでに実践されている県民の方や女性関係団体、福祉団体、事業者など、さまざまなお立場の方に参加いただき、「自助」対策が県民運動として展開できるようにするための方策を協議・検討する第一回自助対策県民運動促進協議会を、本年9月8日(月)に、県庁で開催しました。

(協議会のメンバー)

協議会は、自助関係者として、自助を実践されている県民の方に加え、女性関係団体、福祉関係団体、事業者の7名の方、共助関係者として、自主防災組織の5名の方、公助関係者として、県、市町、消防の6名の計18名のメンバーで構成しています。

(協議会での意見)

「子供たちを対象とした防災教育が重要ではないか」、「自主防災組織などの共助の活動の中で、もっと自助を促進させる取り組みを行ってはよいのでは」、「自主防災組織など地域団体が連携して高齢者等の災害時要援護者の家具転倒防止をサポートすればよいのでは」などの意見が出されました。



なお、次回は、「えひめ防災週間」(えひめ防災の日(12月21日)を含む1週間)における防災意識啓発、実践促進活動等について検討することとなりました。

